

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
平成28年度第3回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 平成28年11月18日(金)10時00分から11時35分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センター 2階研修室
- 4 会議に出席した者
  - (1) 委員  
小野俊次委員、角田フミコ委員、伊藤秀司委員、千葉久美委員  
佐々木義夫委員、浅野恵美委員
  - (2) 事務局  
佐々木さとみ、高橋ひろみ、横山太一、小林公美、相原浩子
  - (3) その他
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別  
議題  
地域の情報交換のしくみを考える  
情報交換  
会議の公開・非公開の別  
**公開**
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数  
0人
- 8 会議資料  
別紙のとおり

## 9 会議の概要

### (1) 議題の審議結果又は今後の対応

- ・専門職の会議間の連携をとるような仕組みが必要である。また、情報交換会のような会議を継続することと、その会議どうしを繋ぐ人が必要である。
- ・区長・民生委員を地域でサポートする体制があると良い。
- ・地域の課題を考えていく為には、専門職は地域の情報をもっと知るべきである。

(2) 詳細な意見

佐々木課長補佐	<p>只今より、平成28年度第3回美里町生活支援体制整備協議会を始めさせていただきます。この会議、準備委員会から始めて5回目となります。これまで情報共有であったり、連携が大切であることを改めて感じているところです。本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。</p> <p>それでは議事のほうに入りたいと思います。相原から説明させていただきます。</p>
相原技術主幹	<p>前回の会議で検討したことを踏まえて考えていきたいと思います。</p> <p>前は美里町にある会議や相談員等を皆さんで出し合って、付箋に書いて表に貼りつける作業をしました。皆さんの手元にある資料が前回作ったものです。</p> <p>貼ってみて気が付いたこととして、色々な会議や相談の場所があるけれども、それぞれの会議で出た内容や情報がなかなかつながらないという意見が出たと思います。必要な情報はつながるようにしたほうがいいというところで前回の会議は終わりました。今日はそこから、情報がつながる為や問題が解決していく為にはどんな仕組みがあったらいいかということを考えていけたらいいのではないかと考えておりました。今日は、また皆さんと作業をしながら普段のことを振り返り、どんな仕組みがあったらいいかを考えたいと思います。</p> <p>A3の用紙に、普段自分達は相談されたことを解決する為に何処の誰に連絡をしているかを図に書いていきたいと思います。自分を中心に線でつないでいきます。一方方向だけではなく矢印が双方向に向いたり、結びつきが強い人は太い線になったり濃い線になったりしてつないでもらえるといいかと思えます。</p> <p>自分が普段どんな人とつながって、解決したり連絡したり、困ったことがあるとどこに相談しているかを線でつないで書いて下さい。</p>
	～個人作業を行う～
相原技術主幹	<p>では、それぞれ書いたものを発表してもらいたいと思います。</p> <p>初めに横山主査からお願いします。</p>

<p>横山技師</p>	<p>地域包括支援センターの横山です。よろしくお願ひします。</p> <p>普段高齢者の介護サービスや退院が近いがどうしたら良いかといった相談が多かったりするので、介護保険の関係でケアマネジャーさんと相談したり、その中で障害者やひきこもりの人がいたりすると健康福祉課の他の係と相談したりします。</p> <p>また、町営住宅に住んでいたり水道が止められたりというような相談があると、役場本庁舎の係にもよく相談をします。</p> <p>民生委員さんにもよく相談をします。行政区長さん、社協さん、民間の業者さん、金融機関さんにも相談します。</p> <p>消費生活センターやひありんくに相談する時もあったり、保健福祉事務所に相談することもあります。</p> <p>入院している方のことは、病院の相談員さんに相談をしながらうまく退院できるようにしたりしています。</p>
<p>相原技術主幹</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>次は小野区長さんお願いします。</p>
<p>小野委員</p>	<p>何かあると民生委員さんと相談する機会が多いです。また、社協さんに色々相談したり、社協さんからこうやって欲しいと頼まれます。</p> <p>また、タックスさんに地区の行事に入ってもらったりしてコミュニケーションをとっています。</p> <p>何かあれば包括支援センターに相談します。</p> <p>一番は役場と相談することが多いです。</p> <p>民生委員さんと連絡を取りながら、高齢者の相談はやっています。</p>
<p>相原技術主幹</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に角田民生委員さんお願いします。</p>
<p>角田委員</p>	<p>民生委員は地域福祉の担い手でもあるということで、地区社協の行事や自治会の役割がありますが、本来の民生委員の役割の時どうするかを書きました。</p> <p>高齢者が多いので、包括支援センターに助けてもらうよう地域の情報をあげるようにしています。自分のところで情報が止まってしまうと、自分の判断が正しいかが分からないので、守秘義務がある為、色々な人に相談するわけにはいかないので、包括支援センターに相談にのってもらい支えてもらっています。</p> <p>生活保護は、健康福祉課の担当者に相談をしています。さるびあ館とは太いパイプでつながっています。</p> <p>区長さんからは、認知症が進んでいる人がいる、気になる人がいると相談があり、情報共有しています。</p>

	<p>社協さんとは生活困窮者にフードバンクのお願いをしたり、生活安定資金のお願いをしたり、訪問をしてもらったりしてつながっています。</p> <p>地域の民児協ですが、同じ民生委員でないとお互いの心の痛みや苦労が分からないので、そこにケースの相談をあげて対応の仕方を検討し、気持ちを共有して少し負担を和らげています。難しいケースになればなるほど皆さんに意見を求めてアドバイスをもらっています。</p> <p>さるびあ館の各係とはつながっています。地域には障害者もいます。</p>
相原技術主幹	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に伊藤さんお願いします。私達とは、違う相談を受ける立場ですね。</p>
伊藤委員	<p>シルバー人材センターは毎日が実践です。今までの経験から言うと、ケアマネジャーさんからの相談が結構きます。町外からきます。相談内容は生活支援や風が吹いて家が壊れたことや、修繕の相談です。</p> <p>何故、シルバーに相談がくるかというと、お金が無いからです。予算や相談内容を聞いて対応します。</p> <p>また、一人暮らしの方の入会があり、仕事をしてもらっています。</p> <p>最近が多岐に渡り相談が入ります。具体的な支援が出来ている状態にあると思います。町外からの相談もあり、その人が住む町のシルバーでは出来ないと言われたからと美里町のシルバーに相談があります。役場や社協を介して相談が入ります。</p>
相原技術主幹	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に千葉さんお願いします。</p>
千葉委員	<p>私は仕事の立場がケアマネジャーと事業所の管理者なのですが、今日はケアマネジャーの立場で書きました。</p> <p>一番は家族や利用者さんとのやり取りが多くて、次に事業所さんとのやりとりが多いです。高齢者に関しては色々な病気があるので、主治医の先生や病院の医療相談の窓口や担当看護師とやり取りすることが非常に多くなります。</p> <p>また地区の民生委員さんにゴミ捨てのことで相談させていただくことが多いです。ゴミの問題が多くあり、どうしたらよいか困っており相談させてもらっています。</p> <p>困難ケースもあり、包括支援センターと相談させてもらってます。制度上のことで、保健福祉事務所や介護保険係と相談してます。</p> <p>社協さんとは移送サービスや配食サービスの相談をします。シルバー人材センターについては、しっかりした高齢者もいるのでそういう方には情報提供を行ってます。</p>
相原技術主幹	<p>ありがとうございました。</p>

	次に浅野さんお願いします。
浅野委員	<p>色で分けました。ピンク色は地域福祉のところで、区長さん、民生委員さん、地区社協さん、地区民協さんが強いつながりです。常に地域で何が起きているかどうすれば良いかということ、個別の支援もあるし、一人を支える地域がどうあったらいいかということをやりとりにしています。特にボランティアグループさんや個人のボランティアさんには困ったことをお手伝いできませんかとお願いしており、この地域福祉に入れました。</p> <p>黄色は、生活困窮でお金が無いだけでなく親戚縁者との付き合いがない、誰にも相談できない、保証人になってもらえない等があり、困っている方が出てきています。滞納のことで税務課や徴収対策課と相談したり、水道事業所に水道使用の相談をしたりしています。</p> <p>健康福祉課にもそれぞれの係に相談はしますが、課としてまとまった相談にはなっていないことが課題です。</p> <p>課題やニーズは出てくるが、それを解決するための策を社協は沢山持っていないので、区長さん、民生委員さんの手を借りること以外にみやぎ生協や町内の企業、法テラスや弁護士会に協力をお願いします。フードバンクで町内の企業に協力してもらったり、社協の特別会員さんとのやりとりもあります。ひありんくや保健福祉事務所、子供だと保育所や子育て支援センター、児童相談所や教育委員会や県教育委員会と広がっていきます。まちづくり推進課もあります。</p> <p>社協には母体があって県社協や全社協や、他市町の取り組みを参考にさせてもらっているのです。その社協等と情報共有しています。</p> <p>伊藤委員さんの話ですが、東松島や石巻は生活支援コーディネーターが配置されていたり地域福祉コーディネーターというような、社協の中に専門のスタッフがあり、地域の個別の情報を持っています。その為、市を超えて美里町まで相談が入ってくるのだと思いました。</p> <p>千葉委員さんの話を聞くと、ゴミは問題なんだと感じました。栗原市のある地区社協では、老人クラブや地区の活動としてゴミを回収しているので、地域のニーズを解決する為の策としてできそうかなと思いました。</p>
相原技術主幹	<p>ありがとうございました。</p> <p>健康福祉課も高齢者は包括、障害者は障害福祉係等連絡先がバラバラになっており、そしてその障害者の相談が他の係の職員がみな分かるかということ、そうではありません。それが皆さんに分かってもらえてよか</p>

	<p>ったと思います。</p> <p>最後に佐々木委員さんお願いします。</p>
佐々木委員	<p>この中では一番狭まった仕事かと思います。</p> <p>相手は高齢者なので、要介護認定を受けている方はケアマネジャーさんと相談をしながらやりますが、その方法か、地域包括支援センターを通して相談するかのどちらかになります。介護保険法に基づく事業所なので、保健福祉事務所や県の長寿社会政策課ともやりとりします。</p> <p>営利法人である我々が、もっと協力し合えるような仕組みが作れればと思います。</p>
相原技術主幹	<p>ありがとうございます。</p> <p>今までの話の中でよく出てきているのは、民生委員さんと区長さんです。それぞれが違う立場にしながら、連絡をしています。地区の中ではもの凄く仕事をしています。</p>
角田委員	<p>私が民生委員になった時よりも、地域福祉という部分の役割が増えました。前は困った人の相談にのる、情報収集するという感じでしたが、最近はそれぞれの地域に合った資源を作り上げましょとか開発しましょという役割になっている。地域の担い手という部分が大きくなってきた。</p>
相原技術主幹	<p>沢山の業務になっていますね。</p>
角田委員	<p>はい。そうです。</p>
相原技術主幹	<p>地域には高齢者も子供もお母さんもと様々な方が生活していて、区長さん民生委員さんも生活していて、ケアマネジャーもいたりして、普段生活の場で区長さん民生委員さんに相談していると思います。区長さん民生委員さんが困ると、役割がはっきりしている人・部署に相談をしていると思います。相談された部署や専門職はそこからまた他に相談をし、何とか解決できるようにやってると思います。個人の相談であればこのようなやりとりかと思います。</p>
浅野委員	<p>私達が考えるとそのような感じだと思います。これは公助や共助の考え方だと思いますが、地域の人が考えると年金友の会が出てきたり、お寺のことが出てきたり、自助と互助のところで既に解決していることもある。でもそれを専門職は知らない。中埜地区で今日私達がやったことと同じことをしました。地域の中のつながりはすごくある。これを今後総合事業の中で担い手だったり資源開発の話になった時に、専門職のつながりの中だけで考えたら限りがある。私達は地域の情報をもっと得るべきだと思います。</p>

伊藤委員	<p>そうですね。他町から依頼が入るのは、自分達のところで何かを解決するのは限界になっているからだと思います。どうするか考えて、他町に連絡している。</p> <p>シルバー人材センターが国から指導を受けているのは、介護事業です。首都圏では取り組んでいます。子供預かりもしています。空き店舗を利用してのお茶のみ会をしたりもやっています。首都圏を中心にシルバーは変わってきています。そういう時代が田舎のほうにも来るのではないかと思っています。</p> <p>それは、今話しているような問題が各地域に起きているということだと思います。</p>
相原技術主幹	<p>私達が考えると、専門職へつながる仕組みしかない。地域の情報を知った方が良くということで、社協さんが行っている情報交換会に私達も行くようにしています。私達は地域の状況が全然分からない。地域では色々なことをやっていたり、解決したりしている。でも、出来ないこともあるかもしれない。その出来ないことや、やってとてもいいことを私達は知っていかなければならないと思います。</p> <p>但し、今の仕組みでは分からないと思います。地域の集まりの場に私達が出ていく仕組みが必要です。また、地域全体のことは個人のことだけを解決していても解決にならない。情報交換会のような単位で、情報交換をして自分の住んでいる地区で起きていることを分かたりするような場面が必要と考えています。社協さんで行っているような情報交換会を継続しながら、でも会議だけあってもつながらないので、会議どうしをつなぐ人を考えていかなければならないと思います。</p> <p>もう一つ考えなければならぬのが、専門職の会議どうしの連携をとるような仕組みが必要かだと思います。社協さんとは、このようなことを話し合っていました。</p>
伊藤委員	<p>施設の長になる方も、入所者のことで困って解決できないでいることもありますね。そういう方々とも定期的な情報交換は大事だと思います。</p> <p>亘理町でワンコインサービスを行っていますが、どういう依頼が多いのか聞いてみると、ゴミだしが多いそうです。あとは洗濯の依頼だそうです。</p>
相原技術主幹	<p>区長さん、民生委員さんは、地域の皆さんから様々な相談を受けたり、困っている方の情報を聴いて地域の方と相談しながら対応していたり、地域の皆さんも頑張っ解決しようとしていたり、解決できる力のある人がいたりします。専門職が全ての相談を吸い上げるということではな</p>

	く、地域で出来ていることを分かりながらやりとりをし、必要なことは連携をとりながらできるようになっていけたらと思います。
小野委員	我々には限度がある。蛇や猫の問題等ささいなことから区長に相談に来る。何でも情報を掴まなくてはならないということではない。できる範囲でやれるといい。
佐々木委員	どの困りごとをどこに相談すれば良いかが分かれば、相談は集中しなくなる。
小野委員	区長に頼めば、一気に解決すると思っている。
角田委員	相談先はだいぶ浸透してきていると思う。私達民生委員を通さないで、直接、包括支援センターやさるびあ館に来る人もいる。介護認定を受けてケアマネジャーさんが付くと、私達が相談に入ることはなくなる。どのサービスを受けているかも分からない。
小野委員	民生委員はサービスについて分からないのか。
角田委員	聞けば分かるが、聞かなければ分からない。 1人暮らしの方は訪問するので分かるが、家族と一緒に暮らしている方は情報は来ない。
浅野委員	制度で解決するものはいいと思います。区長さんが言っているのは、どこにも当てはまらない相談があるということだと思います。それを専門職で全て解決できるかと言えば、解決できるはずがない。だから、様々な相談が区長さんのところにいくのだと思います。だとすると、区長さんが困らないように、地域でサポートする体制があった方がいい。
小野委員	先日一人暮らしの方の安否が分からず、心配した民生委員さんから同行訪問をお願いされ行ってきた。安否は確認され問題は無かったが、いつ何があるか分からない。でも限度がある。だから区長になる人がいなくなる。
相原技術主幹	制度を活用できる人は、制度の中で支援できるのでいいと思います。制度を活用できないものだったり困る。 区長さんと民生委員さんがもの凄く仕事をしていて、このままだと続かないのではないかと話していました。
小野委員	仕事というか、ボランティアだ。
相原技術主幹	地域の中に区長さん民生委員さんをサポートできるような何かを考えられるといい。
角田委員	地域の特性があると思う。農村部と駅東のような所と、元々農村部だった所にサラリーマン等が家を建てた所等がある。その地域に住んでいる人の特性がある。昼間いない地域もある。

浅野委員	<p>中埜地区社協と不動堂地区社協では全く違う。中埜地区社協では「区長さん、民生委員さんがもの凄く仕事している」という発言がありました。このように可視化することで、区長さんの役割や民生委員さんがやってくれていることが分かりました。そこの区長さんや民生委員さんも、自分達には限界があると話されました。</p> <p>制度にのるものは専門職がいるので対応するけれど、どこにもいかないものも凄くある。そういうものがあることを分かるうとすることをしないといけないのだと思います。</p> <p>地区社協で行う情報交換会に、皆さんに参加してもらいながらこのようなことを考えていけたらと思います。</p>
角田委員	<p>精神疾患、知的障害があって、自宅にいる方は地域に沢山いる。両親等が亡くなったら、どうやって生活していくのかと思う。近所の方が情報をくれるが、両親から相談されているわけではないので、こちらからは相談できない。家に引きこもっている人は結構います。そういうのはどうしたらよいかと思っている。</p>
浅野委員	<p>問題が複合している。本人も困っているけれど、家族も困っている。本人を支えるだけでは不十分で、世帯を支えるようなものが必要だと思います。</p> <p>先日、南郷地区の「手をつなぐ親の会」に参加しましたが、自分が死んだらこの子をどうしたらいいかと話してました。手帳を利用してサービスを受けたというだけでは解決しないことが沢山ある。</p>
角田委員	<p>高齢者と障害者が昔より見えるようになってきたのか。両方の相談がくる。</p>
浅野委員	<p>でも相談すると窓口が別になる。</p>
相原技術主幹	<p>高齢者のことだけに関わっていても、その家の問題は解決しない。高齢者のことも、その世帯の他の人のことも見ていきながら今後どうするか等を考えていける仕組みが必要だと思います。世帯全体を相談できるような専門職の体制作りを始めていきたいと思う。</p> <p>昔は役場しか相談する所が無かったので世帯全部を相談していたのが、今は制度がありすぎて、制度で相談が分かれてしまっている。制度で相談をすると、制度に合わない人が落ちていってしまう。</p>
角田委員	<p>私はシルバーさんの考えはとてもいいと思いました。</p> <p>無料だと申し訳ないという気持ちになるので、高齢者でも障害者でもワンコイン払ってサポートしてもらえたらいい。地域にそのようなシステムがあったらいいと思います。</p>

小野委員	100軒に対してゴミを投げられる所が1か所しかない。ゴミがあふれてしまう。役場とも相談し、地域の空き地を見つけもう一か所増やした。解決するとホッとする。安心する。それが我々の生きがいだ。そうでなければやっていけない。
浅野委員	素晴らしいです。
千葉委員	地域によって様々で、前日にゴミを捨ててはいけないと言われる地区もある。ヘルパーがゴミだしをするので、クレームがきたこともある。民生委員さんに相談した際、「その人だけいいことにできない」と言われたり、本人も「人には頼みたくない」と言う人もいる。自費でお金かけてヘルパーを頼み捨てている人もいる。ゴミは苦情がくるので本人も凄く気にしている。もめます。
佐々木委員	地域にゴミを集められる人っていないのでしょうか。500円で請け負ってくれる人とかがいるといい。地域でやってくれるシステムがあるといい。
千葉委員	安否確認も出来るからとてもいいと思います。
小野委員	地区によって必要性が違うのではないかと。自分の住んでいる地区は前日にだしてもいいとしているので、特に問題がないと思う。
角田委員	隣の家の人が、高齢者の方のゴミを持っていっているというのでも聞きます。
浅野委員	頼める人は何とかできているのだと思います。頼めないから孤立してゴミ屋敷になったりする。 栗原市では軽トラックを持っている高齢者が、頼まれた人のゴミを集めて投げています。
千葉委員	あまりにも問題が多すぎて、JAでもそのように出来ないかと話してました。
角田委員	各地区には衛生班があるので、そこで課題を出して、根付かせるのが一番ではないでしょうか。
浅野委員	栗原市は老人クラブでやっているの、互助組織でやっている。ワンコインではなく、お互い様でやっている。 1人の課題を取り払おうとすると、ワンコインでいいと思います。その人の課題の解決にはなるが、私達がすることは仕組みを作っていくことです。軽トラックでゴミを持って行ってもらえばそのことは解決になるが、孤立していることには変わりない。隣の人をお願いできる関係を作っていくことが大事だと思います。

伊藤委員	生活の仕組みの中に、互助というものが崩壊しているように思う。講中、六親講がない地区は難しい。隣の地区はやめてしまった。聞くと、情報が入らなくなったと言っている。地域は変わっていつている。
角田委員	若い人が働いていて出られないから、やめていつている。
浅野委員	講が無いとすると、講が無くても支えられるゆるいつながりが必要だと思ひます。
相原技術主幹	<p>JAさんのゴミの問題については、地域性もあるのかと思ひるので解決するのに時間がかかるのかと思ひます。その人個人の問題なのか、地域の課題なのかを併せて検討したいと思ひます。</p> <p>今日の会議で、地域の中にも様々なことを解決していくようなつながりがあったり、仕組みがあるのだということをはかりながら、制度から零れ落ちそうな人や地域では解決できないことを情報交換しながら解決できる方向にもっていく仕組みや、区長さんや民生委員さんを支える人や、把握できた情報を行ったり来たりさせる人の存在というところを次回検討できるといいかと思ひます。</p> <p>今日はこれで終了にしたいと思ひます。大変ありがとうございました。</p>

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_